

# カネソウ E X ジョイント 免震構造建築用 MX シリーズ

## エキスパンションジョイント 施工要領書・取扱説明書

---

### 対象製品：

床部（屋内床・屋外床）免震エキスパンションジョイント X方向スライド式 Y方向スライド式  
本体パネルステンレス鋼板製 ノンスリップタイプ（突起加工付）  
片側スロープ仕様 MX66R-F  
両側スロープ仕様 MX66RB-F

### 施工およびご使用される前に必ず最後までお読みください

この度は、カネソウ E X ジョイント免震構造建築用をご使用いただき、誠にありがとうございます。  
施工する前に、必ずこの「施工要領書・取扱説明書」をご一読いただきますようお願いいたします。  
間違った施工・取扱を行いますと、製品のガタツキや損傷、事故につながる可能性がありますのでご注意ください。

なお、施工終了後は本書を御施主様あるいは建物管理者様へ、必ずお渡しいただくようお願いいたします。  
本書は、いつでも見られる場所に必ず保管していただくようお願いいたします。

---

### カネソウ株式会社

〒510-8101 三重県三重郡朝日町大字縄生81番地

TEL (059) 377-3232 FAX (059) 377-3905

東京支店

TEL (03) 3433-6645

大阪営業所

TEL (06) 7639-5870

仙台営業所

TEL (022) 214-8088

福岡営業所

TEL (092) 432-2532

URL: <https://www.kaneso.co.jp/> E-mail: [info@kaneso.co.jp](mailto:info@kaneso.co.jp)

この内容は2023年10月現在のものです。仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

## EXジョイントを安全にご使用いただくためのお願い

本製品は正しく取り扱うことで、安全にご使用いただけます。  
製品の誤った場所での使用、誤った取り扱い、破損したままの製品を継続して使用することによる、事故の未然防止のため、下記の注意事項をお守りいただくよう、お願いいたします。

### 設計上の注意事項

#### 設計条件を超える荷重がかかる場所では使用しないでください。

床用のエキスパンションジョイントには設計荷重があります。適用荷重を超える荷重がかかると、破損や変形を招き、事故を引き起こす恐れがあります。

#### 設計前に必ず使用場所の確認をしてください。

設計前に必ず使用場所の確認をしてください。エキスパンションジョイントは製品によってサイズ・形状・仕様が大きく異なります。設計前に必ず使用場所の確認をしたうえで、製品の選定をしてください。本施工要領書・取扱説明書に掲載されている製品の使用場所以外には使用しないでください。

### 施工上の注意事項

#### 加工をしないでください。

切断、穴あけ、切削、変形などの加工を施さないでください。製品強度の低下や、錆の発生原因となり、事故を引き起こす恐れがあります。

#### 外部からの強い衝撃を与えないでください。

搬入時などエキスパンションジョイントに、衝撃や荷重をかけないでください。破損や変形する恐れがあります。

### 取扱・維持管理上の注意事項

#### 維持管理上の注意について

本体パネルが破損したり紛失した場合は、速やかに取り替えまたは補充をしてください。取り替えまたは補充をしないと、転倒事故などによりケガおよび骨折の恐れがあります。特に地震など大きな変位があった後は、製品の破損状況や本体パネルなどが所定の位置に戻っているか、ガタツキ等がないかを確認し、安全な状況を確認してから通行してください。

#### すき間に指を入れないでください。

本体パネルと本体パネルのすき間や、本体パネルと受枠のすき間などに指を入れると、指詰めなどのケガをする恐れがあります。すき間に指を入れないでください。

#### 持ち運び及び輸送には、充分ご注意ください。

重量の重い部材があります。腰などを痛めたり、足の上に落とすとケガの恐れがあります。

#### 取り付け・取り外しは専門業者に依頼してください。

エキスパンションジョイントの施工および取り扱いについては、製品の機能を維持するため、また、施工・取り付け不良による破損や変形、不具合を防止するためにも施工要領書・取扱説明書記載の手順を厳守してください。清掃や交換などのメンテナンスが必要な場合は、専門業者に依頼してください。取付方法を誤ると、破損や変形、ガタツキを招き、事故を引き起こす恐れがあります。取り付け・清掃・交換・点検などの際は必ず作業用手袋を着用してください。

#### ステンレス製品について

ステンレスは、絶対に錆びない金属ではありません。ステンレス製品を美しく保つには、設計、施工上の配慮に加えて、適切な清掃と手入れが必要です。清掃にあたっては、状況に応じた適切な方法を選んでください。また、ステンレス製品のうち、SUS304を使用している製品におきましては、通常、磁性を有しませんが、生産工程における曲げ加工や溶接などにより、加工部分の金属組織が変わり、磁性を持つようになる場合がありますので、ご了承ください。

#### 破損、変形、ガタツキが発生したエキスパンションジョイントは使用しないでください。

何らかの原因で、破損や変形あるいはガタツキが発生しているエキスパンションジョイントは、強度が著しく低下しており、事故を引き起こす恐れがあります。適正な製品に交換してください。

#### タイル等を清掃する場合の注意事項

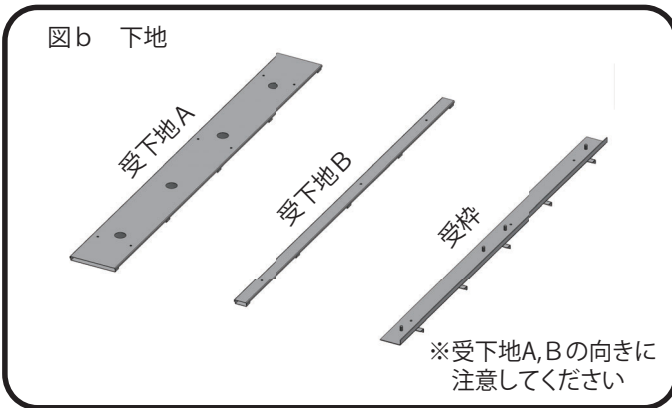
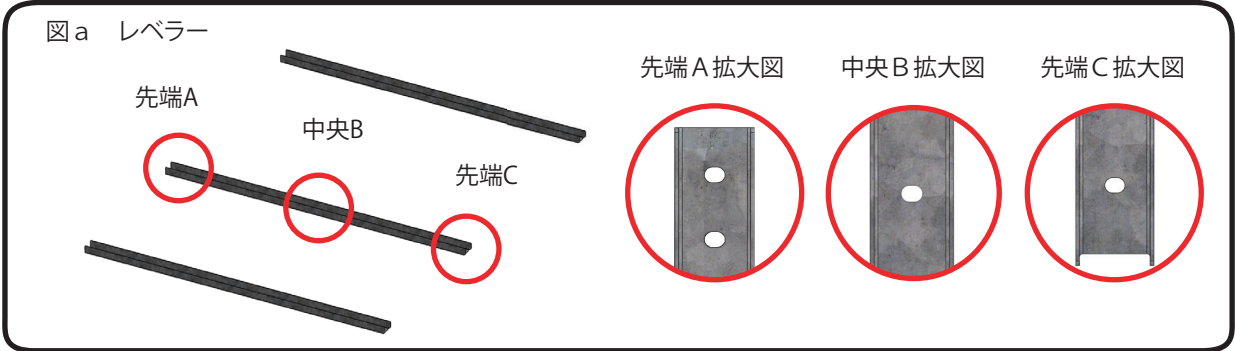
タイル等を酸系統（次亜塩素酸ソーダなど）の洗浄液で清掃する場合、金属製品（ステンレス・アルミニウム・鉄・スチールの塗装品および亜鉛めっき品）の錆の発生を防ぐため、金属製品に確実に養生を行うか、清掃後水洗いを十分行ってください。

#### 油などが付着した場合、すみやかに取り除いてください。

油などの滑りやすいものがエキスパンションジョイントの表面に付着すると、車両のスリップや歩行者の転倒などの事故を引き起こす恐れがあります。すみやかに清掃を行い、油などを取り除いてください。

# レベラー組立手順 片側スロープ仕様 MX66R-F

施工時にはレベラーを使用して組み立てます。レベラーは1物件につき、最大で下地の標準長さ2セット分付属します。下地数量がそれより多い場合は下地を溶接固定施工後、取り外して複数回ご使用ください。下地の標準長さは1920mmです。レベラーは3本で1セットです。

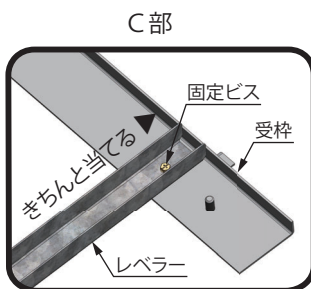
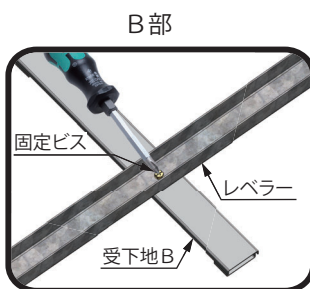
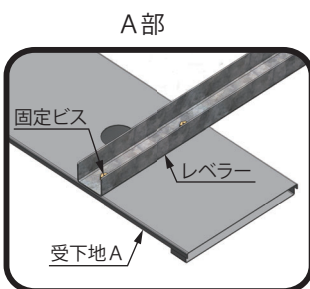
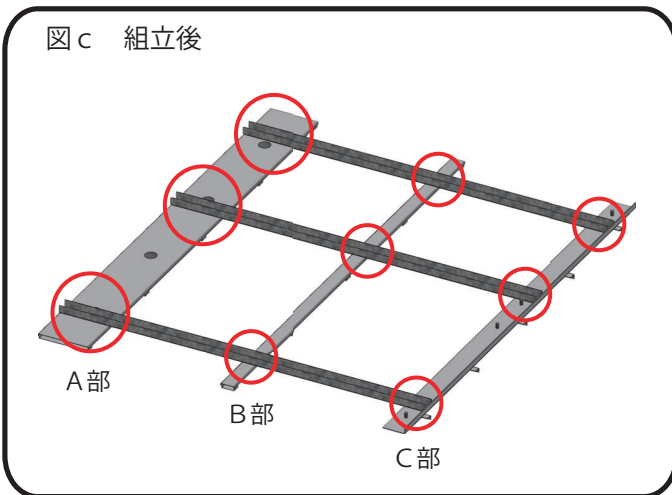


手順①  
下地の上面にレベラーをセットします。

- レベラー (図a) の先端Aが下地 (図b) の受下地Aに、レベラーの先端Cが下地の受枠に向くようにします。
- レベラーに受枠・受下地を合わせ、全てそろえて組み立ててください (図c)。

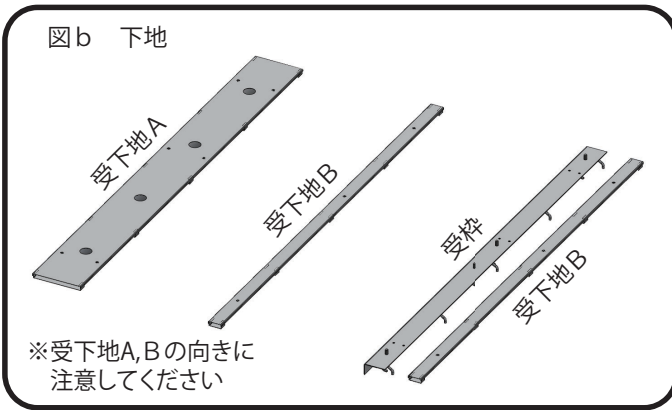
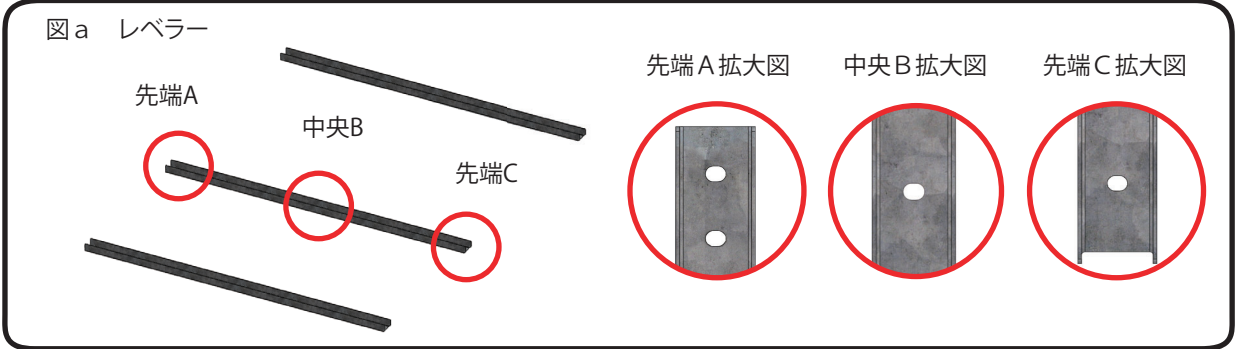
手順②  
レベラー、下地を固定ビスを用いて固定します。

- 受枠の立面部にレベラーの端部がきちんと当たっているか (下図C部) を確認してください。
- 図cに示した○部を固定ビスで固定します。
- 部の固定ビスは、ドライバーで締め付けてください (下図B部)。
- 下地寸法、形状、配置が図面寸法に合っているかを確認してください。



# レベラー組立手順 両側スロープ仕様 MX66RB-F

施工時にはレベラーを使用して組み立てます。レベラーは1物件につき、最大で下地の標準長さ2セット分付属します。下地数量がそれより多い場合は下地を溶接固定施工後、取り外して複数回ご使用ください。下地の標準長さは1920mmです。レベラーは3本で1セットです。

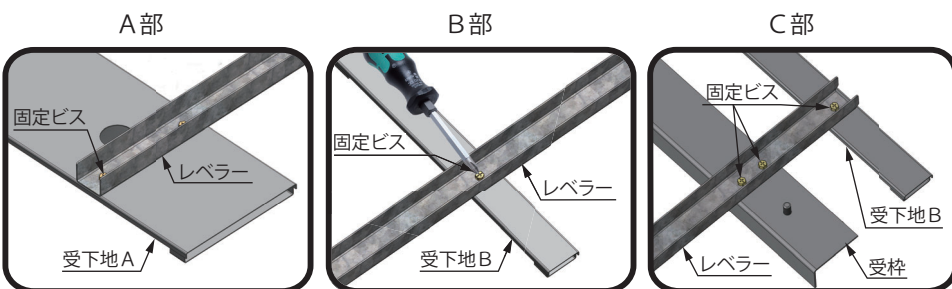
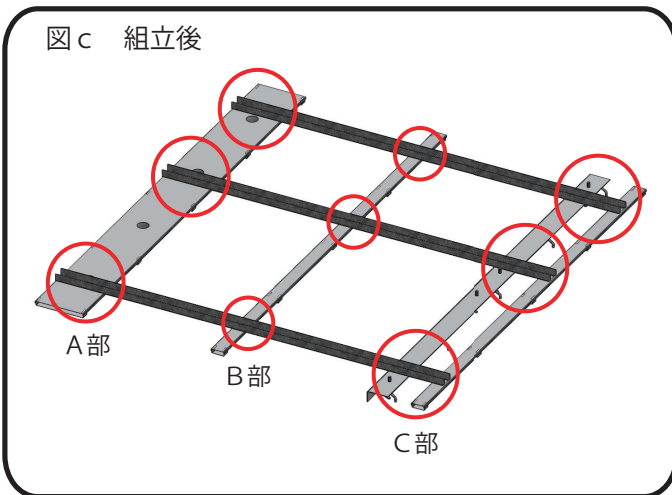


手順①  
下地の上面にレベラーをセットします。

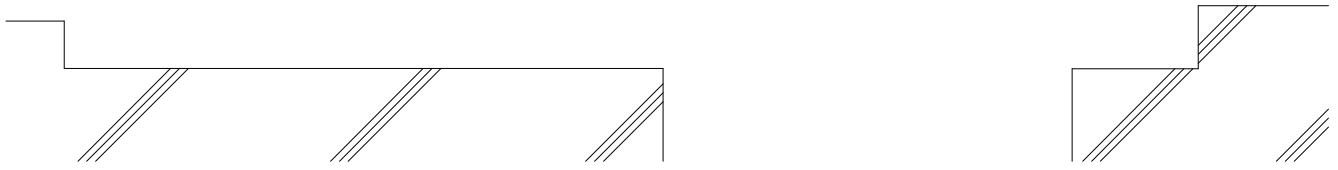
- レベラー (図a) の先端Aが下地 (図b) の受下地Aに、レベラーの先端Cが下地の受枠に向くようにします。
- レベラーに受枠・受下地を合わせ、全てそろえて組み立ててください (図c)。

手順②  
レベラー、下地を固定ビスを用いて固定します。

- 図cに示した○部を固定ビスで固定します。
- 部の固定ビスは、ドライバーで締め付けてください (下図B部、C部)。
- 下地寸法、形状、配置が図面寸法に合っているかを確認してください。



1 施工図に従いスラブを仕上げます。

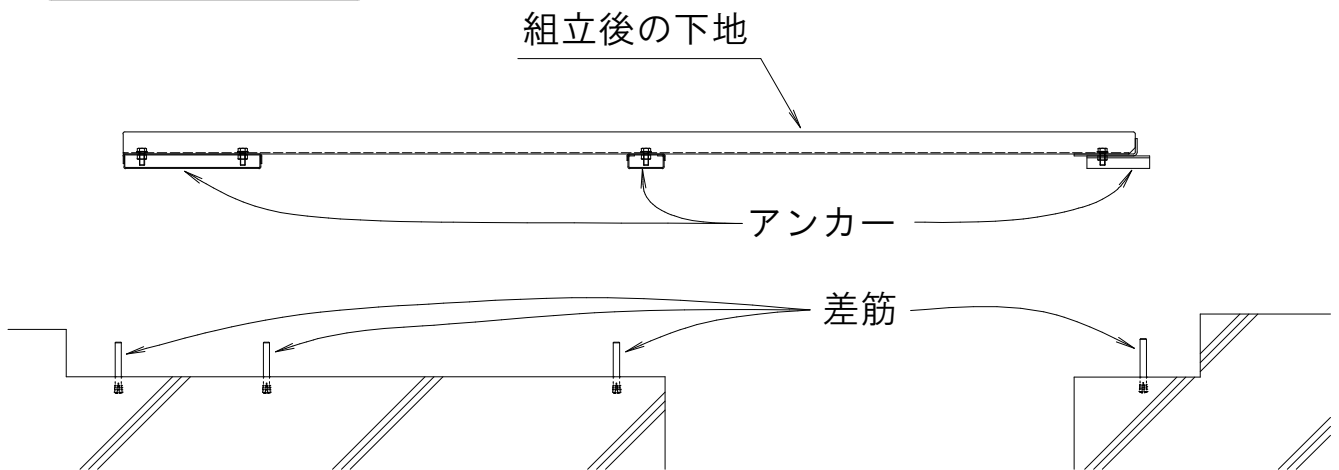


2 レベラー組立手順（3ページ、4ページ）に従って下地を組み立てます。  
その後、下地のアンカー位置に合わせて、差筋（※1）の位置を決めます。  
差筋は下地のすべてのアンカー位置に立ててください。

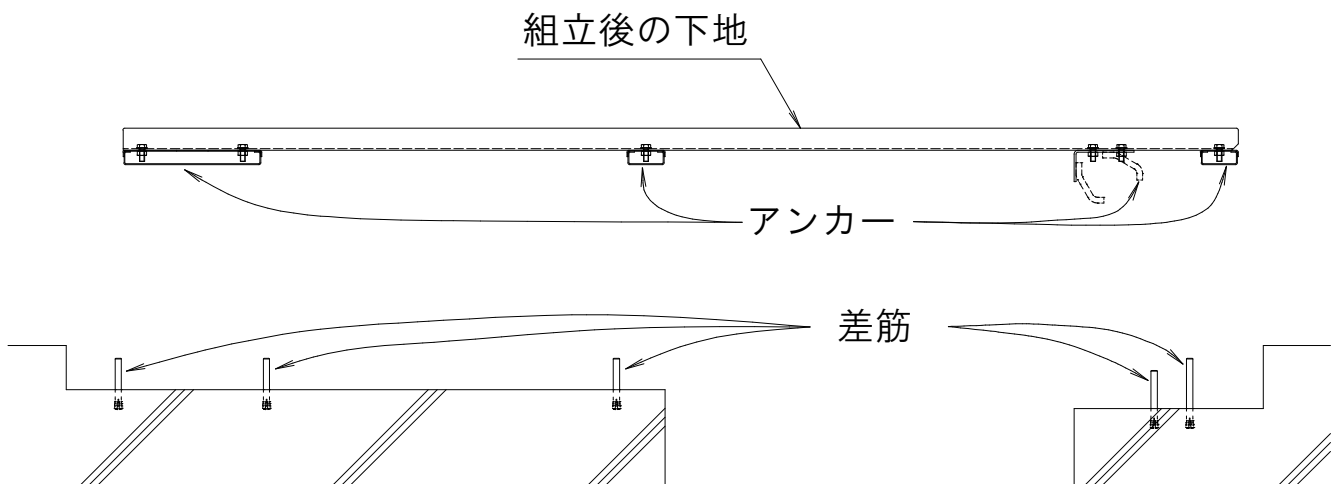
※1 コンクリート一発打設の場合は、補強筋で補強した鉄筋になります。

※2 Rタイプは本体パネル片側スロープ仕様、  
RBタイプは本体パネル両側スロープ仕様です。

— Rタイプの場合 ※2

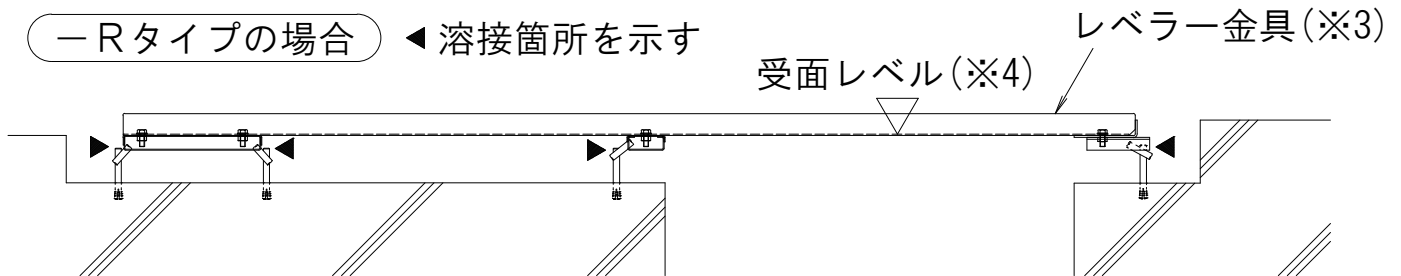


— RBタイプの場合 ※2

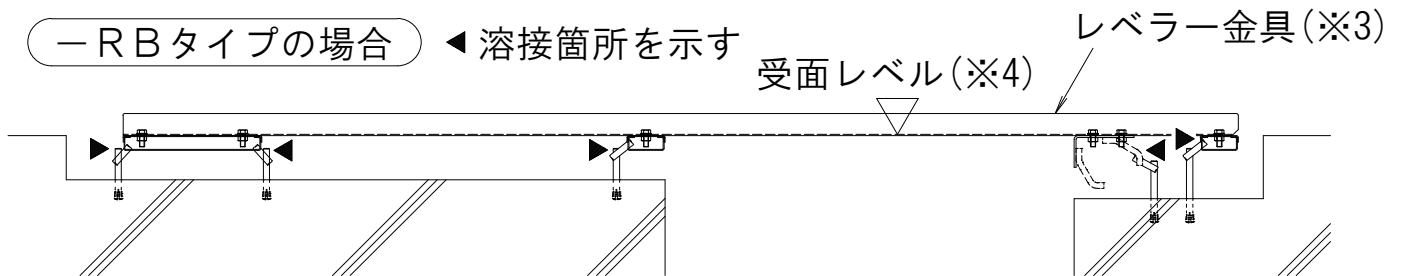


- 3 図面寸法に基づき、下地のレベルを調整し、すべてのアンカーと差筋を被覆アーク溶接します。溶接後、レベラー金具を取り外してください。
- ※3 下地取り付け時には必ず付属のレベラー金具をご使用ください。
  - ※4 差筋、鉄筋は下地の受面レベルより飛び出さないようにしてください。
  - ※5 コンクリート打設、モルタル仕上の作業終了まで、下地の上に荷物を置いたり歩行したりしないでください。

—Rタイプの場合 ◀ 溶接箇所を示す

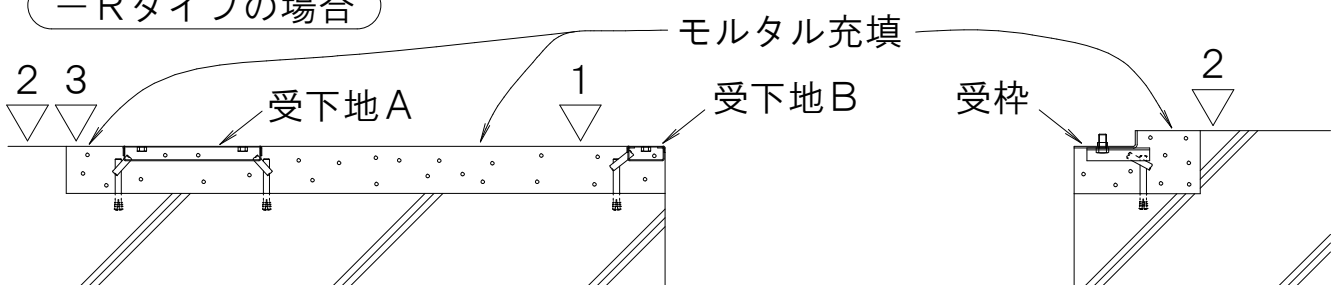


—RBタイプの場合 ◀ 溶接箇所を示す

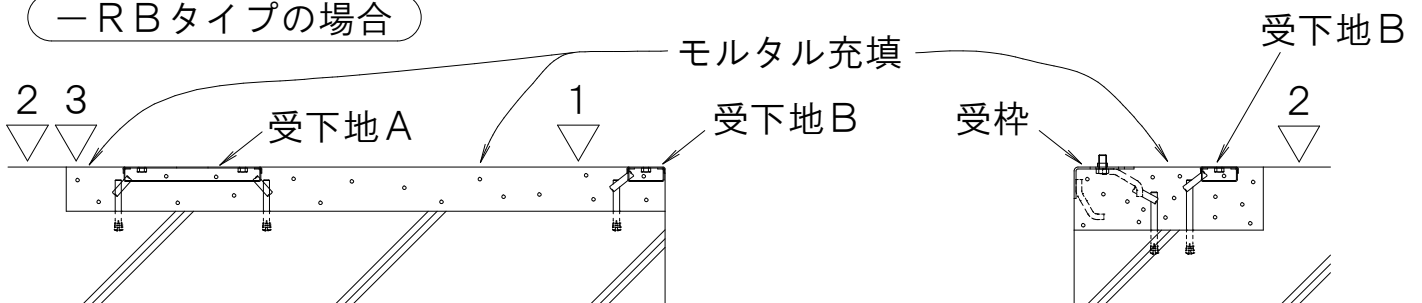


- 4 欠き込み部へのモルタルの充填および床面の仕上げを行います。
- ※6 ▽1の仕上げ天端は、パネルの浮き（ガタツキ）が発生しないようにするために、必ず受下地A、Bの天端より低く仕上げてください。
  - ※7 ▽2の仕上げ天端は、床仕上材の厚み分をマイナスしたレベル（F.L. - 床仕上材の厚み）に仕上げてください。
  - ※8 ▽3の仕上げ天端は、地震可動時に先端カバーがスライドできるように、必ず受下地Aの天端以下にて平滑に仕上げてください。

—Rタイプの場合

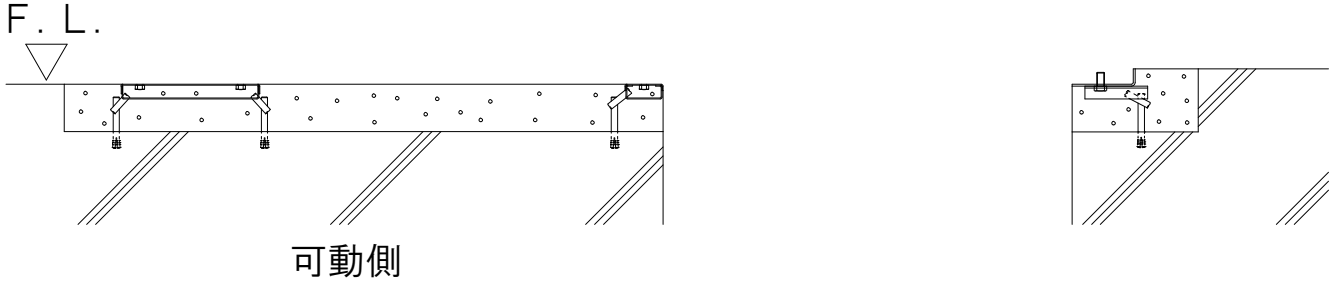


—RBタイプの場合

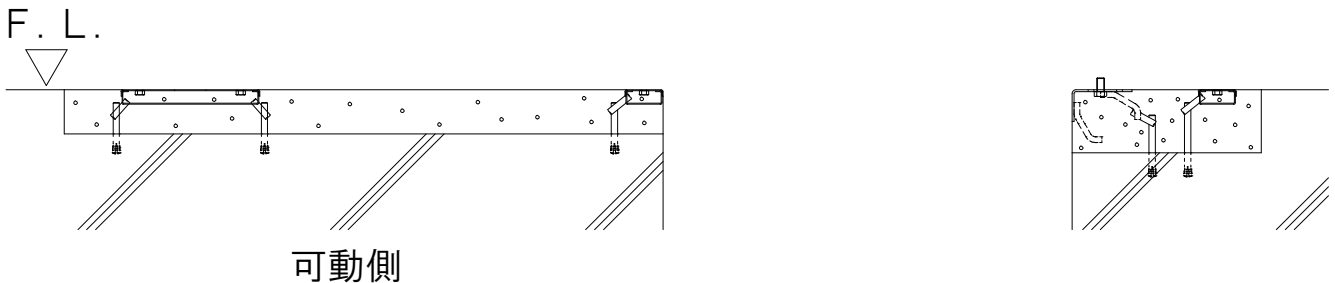


- 5 床仕上げを行います。  
 ※9 可動側の仕上面がF.L.より高い場合、変位時に本体パネルの先端カバーが接触して本体パネル、床仕上材などが損傷する恐れがありますので、絶対に避けてください。

—Rタイプの場合



—RBタイプの場合



- 6 受下地・受枠の汚れ、ゴミなどを清掃し、クッション材を通して貼り付けた後、本体パネルをセットしてください。  
 ボルト固定部は下より、平座金→六角Uナットの順でセットしてください。  
 ボルト固定部は下最後にキャップをはめてください。  
 ※10 クッション材は通しで貼り付けます。固定ボルト部はカットして貼り付けてください。(図1)  
 ※11 下地の清掃はクッション材貼付け時、および本体パネルセット時に行ってください。  
 ※12 六角Uナットは、スリーブに当たるまで締め込んでください。(図2)

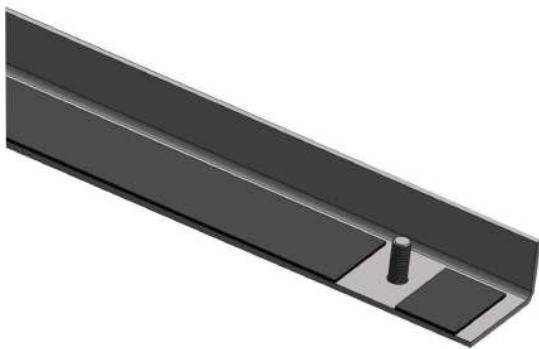


図1 クッション材

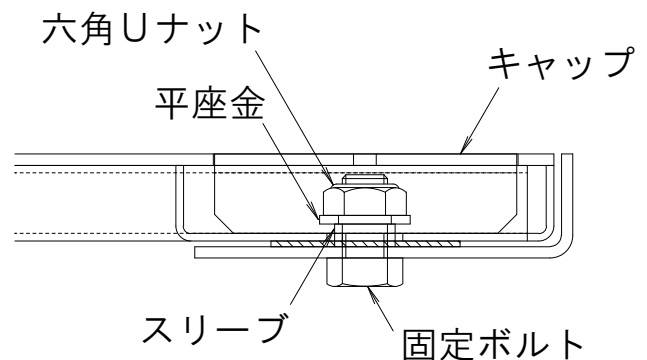
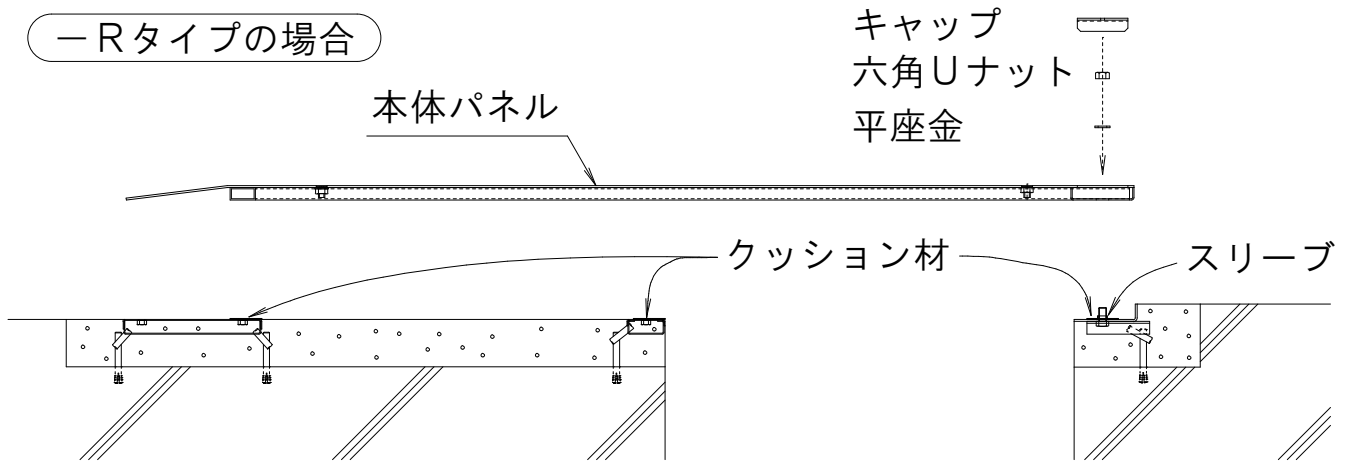


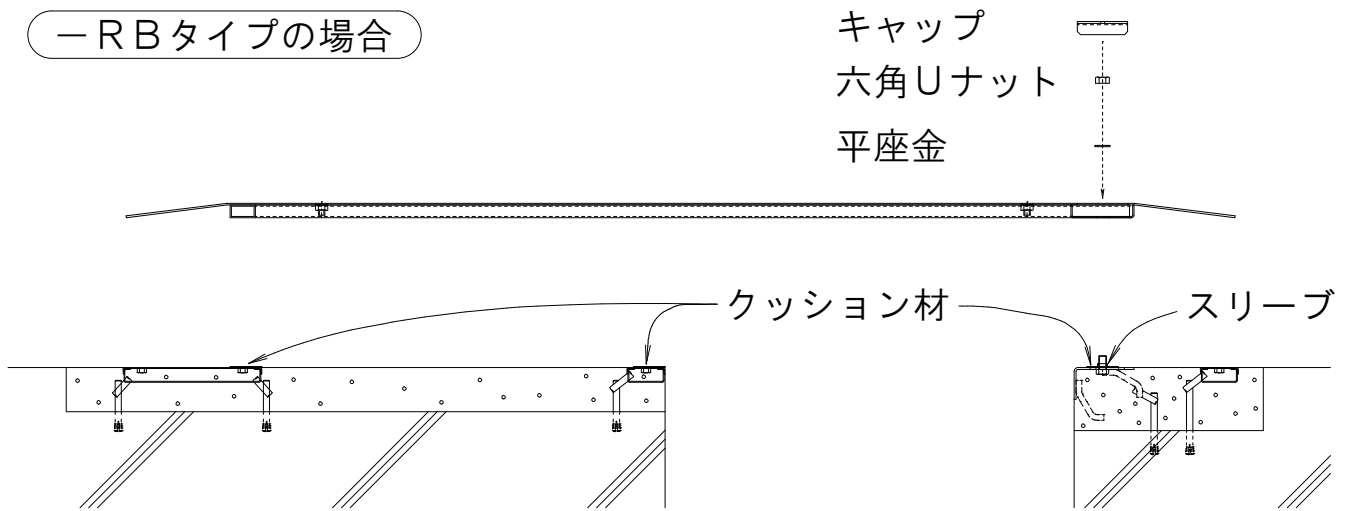
図2 Uナット締め付け

6 続き

ーRタイプの場合

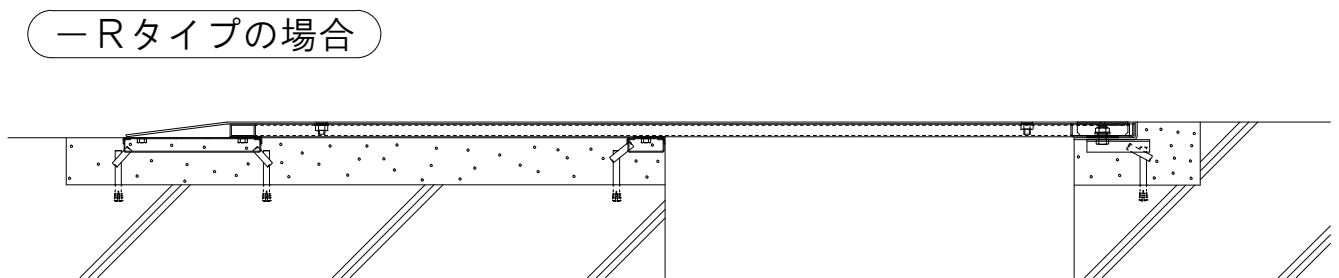


ーRBタイプの場合



7 施工完了です。

ーRタイプの場合



ーRBタイプの場合

